

26 戦後期に発生した予防接種後の四つの接種結核事故について

渡部 幹夫

接種結核事故としては、一九三〇年にドイツのリューベックにおいて発生した、経口BCGワクチンによるものが有名である。

戦後期の日本には予防接種に伴い集団発生したと考えられる四つの接種結核症の記録がある。当時の日本では、GHQの指導により、予防接種による感染症の予防が強力に進められていた。それぞれの事故についてその背景、発生状況、発生後の行政対応、社会の受け止め方などについて考察を加える。

第一の事故は昭和二十一年五月兵庫県道場国民学校において腸チフス予防接種が行なわれた後に一〇二名に皮膚および腋窩リンパ腺結核症を発生したものである。この事故は接種を行った女医が開放性結核であったために

発生したとされた。昭和二十二年四月の日本医学会総会第二十分科会として行われた第二十二回結核病学会総会で、厚生省の濱野予防局長により報告がされている。接種医の夫（医師）が同会場にて追加発言したとの記録がある。しかし原因については、疑義も持たれたようである。この事故について症例の医学的経過観察が佐川、岩崎、田村等により発生後八年目まで継続してされており二名の結核死亡が記録されている。

第二の事故は昭和二十三年春、秋田県由利郡松ヶ崎村にてジフテリア予防接種を行なった六八七名の中から十三名の接種結核症と思われる症例の集団発生が見られたものである。これは同年末に京都・島根ジフテリア予防接種禍が発生したために、厚生省が発したジフテリア予防接種事後調査によって明らかとなった。GHQ文書の中の公的調査報告記録では、同時期に同地で行なわれていたBCG接種用のワクチンの誤用により発生したと結論づけている。しかし、後に黒川は抗酸菌病研究雑誌で、三十七名の罹患者の七年間の観察報告を行ない、結核死亡はないものの肺結核症、肺外結核症の発病があっ

たことを報告しており、BCGの誤接種については言及していない。

第三の事故は昭和二十三年十一月宮城県岩ヶ崎町において百日咳予防接種を受けた二〇七名中六十五名に接種結核症が発生したものである。接種ワクチンのヴァイアルより抗酸性菌が塗沫鏡検により確認されている。接種医が結核症であった記録がある。結核死亡は二例でありストレプトマイシンによる治療が行なわれ、その膨大な記録が残る。国家賠償法による訴訟が起されているが原告は後日、提訴を取り下げている。

第四の事故は昭和二十六年秋、岡山県吉備郡においてジフテリア予防接種と百日咳予防接種を受けた一四八名中十六名に感染性腋窩リンパ腺結核症が発症したことが、昭和二十七年に岡山県に報告されたものである。接種医がその後肺結核症を発症しているが結核菌の迷入経路についての結論は得られていない。

以上四つの接種結核症は、急性の伝染病の流行を予防する目的で行なわれた予防接種により、慢性疾患である結核症が集団的に発症し、その疫学調査や予後の観察記

録が残っているものである。いずれの事故においてもその発症の原因はあきらかとなっていない。四件中三件では接種医の結核症が記録されている。このような接種結核症事故の複数の発生は戦後期日本に特徴的なものと思われる。日本に結核症が蔓延していた時代に導入された強力な法による予防接種によりおこったともいえる。これらの事故に対する全国紙の新聞報道記事はほとんどない。

昭和二十六年に、日本学術会議第七部会が厚生大臣に対してBCGの強制接種に反対する意見書を提出して、BCG論争が起こっている。しかし結核予防審議会の反論があり、BCGの接種がつけられた。BCG論争では月刊雑誌、日刊紙により活発な報道がされているが、今回述べたこれらの事故にふれたものは少ない。戦後期の予防医学と医療の一側面について予防接種と接種結核症から報告する。

(順天堂大学医療看護学部)